

# 小さな施設が大きな喜びに・・・ 簡易水道事業

## 簡易水道の建設

当市の簡易水道は、地区の要望に応じて、水源の確保を行い、新設、拡張に取り組んできました。この簡易水道の多くが石炭産業終焉時の鉱害処理、中でも井戸水、湧水の枯渇、炭鉱専用水道の休止による生活用水の確保を重点として行われたものです。

現在も、未普及区域の解消と水道水の安定供給のため、施設や管路の更新や拡張を行っております。また、第9次拡張事業により市営の4簡易水道（大川・松浦・藤川内・福川内）と民営の簡易水道・飲料供給施設を上水道に統合しました。

現在は、市営簡易水道が7施設、民営の簡易水道が6施設、飲料水供給施設が6施設あり、地域の重要な社会基盤施設として活躍しています。



## 浦ノ崎簡易水道

伊万里市の西部に位置し、川南工業所から受け継いだ浦ノ崎水道組合と向山鉱業所の専用水道を引き継いで昭和39年に給水を開始した簡易水道です。佐代川の水を水源とし、山代町の立岩と西分・東分の一部に給水しております。

平成24年度から野々頭地区へ給水区域を拡張し、平成25年度に高度浄水処理方式（生物接触処理+膜ろ過）の設備へと更新しました。

給水開始年月 —— 昭和39年9月  
給水区域 —— 山代町立岩・西分・東分の一部  
計画給水人口 —— 1,400人  
施設能力 —— 620m<sup>3</sup>/日



浦ノ崎浄水場

## 生物接触ろ過池

活性炭に付着した微生物による自然浄化作用を利用して、カビ臭物質等の異臭味や黒水の原因となるマンガンを、さらにはアンモニア性窒素等を効率良く除去し、安全でより良質な水を作ります。



生物接触処理設備

## 膜ろ過設備

セラミック膜を採用しています。セラミック膜ろ過システムは原水中に含まれる、濁度、細菌類、クリプトスポリジウムなどの原虫類をセラミック膜で除去して、清澄な水道水を造る浄水設備です。



膜ろ過処理設備

## 野々頭配水池

平成24年度に完成した野々頭配水池により、野々頭地区への給水が可能となりました。



野々頭配水池 (71.5m<sup>3</sup>)



## 小さな施設が大きな喜びに・・・ 簡易水道事業

### 波多津簡易水道

伊万里市の北部に位置する農村地帯で、内陸部は園芸・畜産・米農業を中心とし、沿岸部に伊万里市で唯一の漁港があります。

昭和32年に給水を開始した簡易水道で、当時の給水区域は波多津町浦地区のみであり、水源の地下水も国の基準以下ではありますが硬度が高く、改善の要望がありました。

そのため、新たな3か所（木場・筒井・田代）の井戸を水源として浄水場と配水設備を新設し、平成21年に給水を開始しました。

これにより水質も改善され、木場・筒井・井野尾・田代・板木・津留・中山・辻地区への給水も可能となりました。平成26年度末で深谷地区への拡張が完了する予定です。

給水開始年月 —— 昭和32年11月  
給水区域 —— 波多津町木場・筒井・井野尾・田代・板木・津留・中山・辻の一部  
計画給水人口 —— 1,600人  
施設能力 —— 680m<sup>3</sup>/日



波多津浄水場



波多津2系配水池

### 川内野簡易水道

川内野地区は、伊万里市の西部に位置する農山村地帯で、稲作を中心に都市との交流事業など町おこしが盛んです。生活用水の不足と衛生意識の高まりにより簡易水道事業に取り組みました。

平成10年度より2億9,660万円（国庫補助金7,100万円）をかけ、平成13年に給水を開始した簡易水道です。地下水と表流水を水源とし、川内野地区の各戸に給水しております。

給水開始年月 —— 平成13年4月  
給水区域 —— 東山代町川内野の一部  
計画給水人口 —— 184人  
施設能力 —— 55m<sup>3</sup>/日



川内野簡易水道浄水場

### 木場簡易水道

伊万里市の北部に位置する農山村地帯で、水稻・タバコ栽培を中心としています。

上場開発のため、井戸水が枯れるなどの生活用水の不足と住民の衛生意識の高まりにより簡易水道の新設に取り組みました。

平成7年より事業を開始し、2億9,562万円をかけ、平成9年に給水を開始した簡易水道です。地下水を水源とし、平成26年度末で大知木地区への拡張が完了する予定です。

給水開始年月 —— 平成9年5月  
給水区域 —— 波多津町木場の一部  
計画給水人口 —— 154人  
施設能力 —— 50m<sup>3</sup>/日



木場簡易水道浄水場



# 小さな施設が大きな喜びに・・・ 簡易水道事業



## 上大久保簡易水道

伊万里市の西部に位置する農山村地帯で、稲作栽培を中心としています。  
国見炭鉱の石炭直下採掘地区で、井戸水、湧水の枯渇により応急の民営水道施設で急場をしのぎ、鉱害復旧事業により施工されました。  
昭和63年に給水を開始した簡易水道で、里川を水源とし、東山代町上大久保地区の一部に給水しております。

給水開始年月 — 昭和63年1月  
給水区域 — 東山代町上大久保の一部  
計画給水人口 — 108人  
施設能力 — 24.3m<sup>3</sup>/日



上大久保簡易水道浄水場

## 峰簡易水道

伊万里市の西部に位置する農山村地帯で、稲作栽培を中心としています。  
楠久炭鉱の石炭直下採掘地区で、井戸水、湧水の枯渇により応急の民営水道施設で急場をしのいできました。昭和56年、鉱害の認定を受け、昭和57・58年度に施工、昭和59年4月に給水を開始した簡易水道で、国有林に発する湧水を水源とし、峰地区に給水しています。

給水開始年月 — 昭和59年4月  
給水区域 — 山代町峰の一部  
計画給水人口 — 109人  
施設能力 — 42m<sup>3</sup>/日

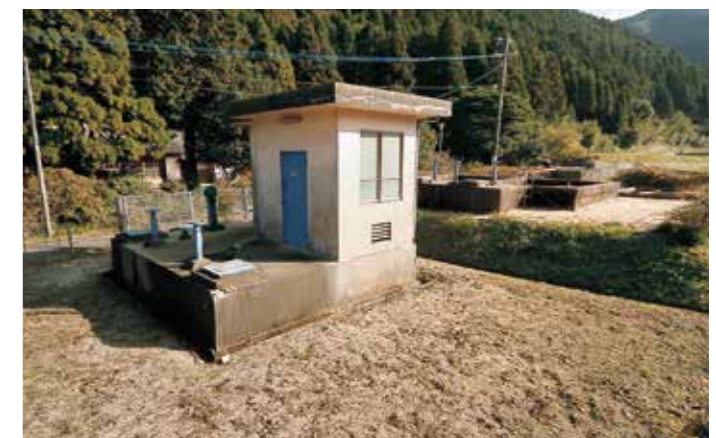


峰簡易水道浄水場

## 滝川内簡易水道

伊万里市の西部に位置する標高250mの農山村地帯で、稲作栽培を中心としています。  
久恒鉱業株式会社楠久炭鉱の石炭採掘によって飲料水が枯渇したため、昭和35年同鉱が専用水道を設置し、昭和43年5月まで経営されてきましたが、閉山により市営の簡易水道として引受整備したものです。  
昭和46年に給水を開始した簡易水道で、国有林に発する湧水を水源とし、東山代町滝川内地区に給水しております。

給水開始年月 — 平成46年4月  
給水区域 — 東山代町滝川内の一部  
計画給水人口 — 400人  
施設能力 — 60m<sup>3</sup>/日



滝川内簡易水道浄水場

## 滝川内の風呂釜

東山代町里・真鍋浩子さん  
(90周年誌より)

東山代町滝川内の山崎古場にはおよそ60年程前まで冷泉が出ていたそうです。現在は竹林におおわれ、谷沿いを少し登った辺りに風呂釜の跡がただ残っているだけです。  
この冷泉にはその昔、大怪我をした大蛇が毎日泉にきて、傷を癒していたという伝説があり、水質を調べてみたら、実際に傷を治す効果があったそうです。当時はこの風呂釜をまきで沸かし、温泉として地元住民や遠方の人たちが利用していました。傍らでは針灸もありがたいそうにぎやかであったそうです。  
今は、緑のなか、かすかに流れる水と辺りを歩き回る沢蟹が美しい水の湧き出る証をみせているようでした。



当時の風呂釜跡